

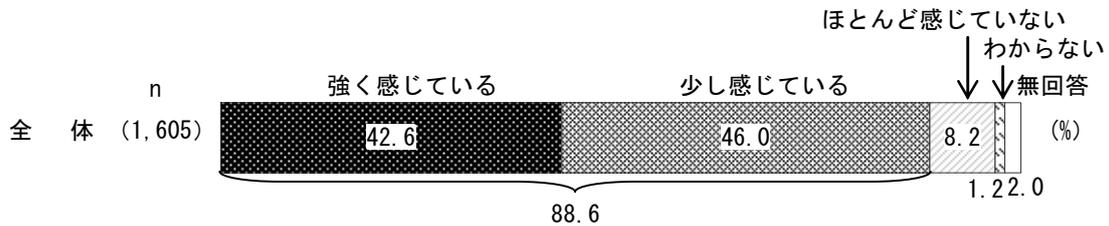
## 6 防災に関する取り組みについて

### (1) 大地震や風水害への不安

◇『感じている』が約9割

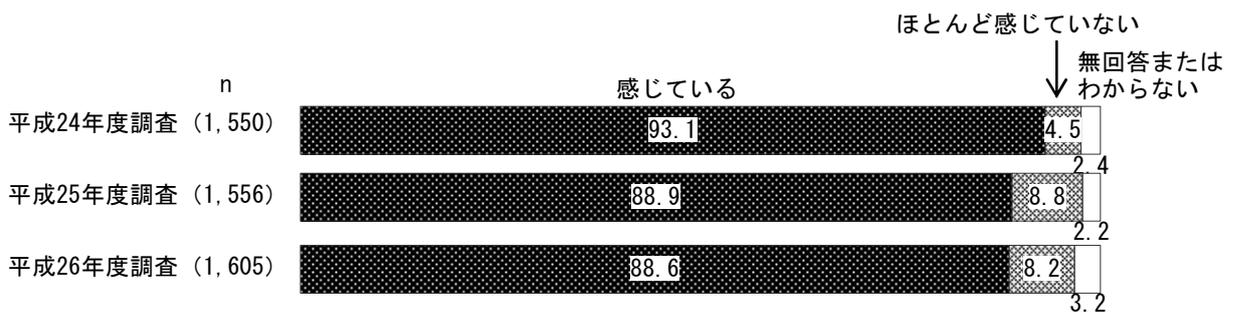
問28 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、大きな被害が出ました。また、近年、記録的な大雨や台風などにより九州、近畿、東海地方を中心に浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。(〇は1つ)

<図表6-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(42.6%)と「少し感じている」(46.0%)を合わせた『感じている』(88.6%)は約9割となっている。一方、「ほとんど感じていない」(8.2%)は約1割である。(図表6-1)

【参考】平成24年度・平成25年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



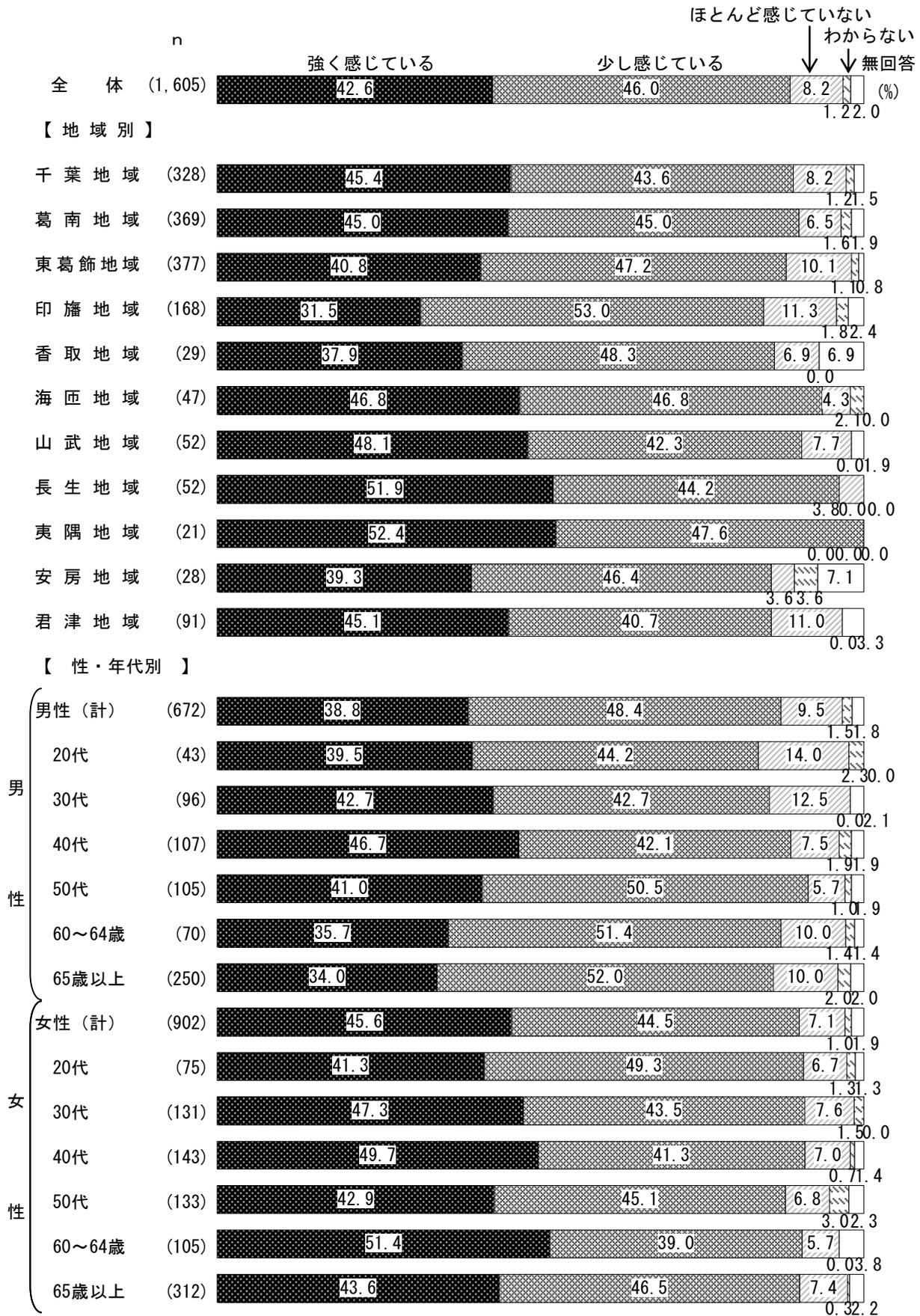
#### 【地域別】

『感じている』は全ての地域で8割以上となっている。(図表6-2)

#### 【性・年代別】

『感じている』は全ての性・年代で8割以上となっている。女性では、50代(88.0%)以外のすべての年代で9割以上となっている。(図表6-2)

<図表6-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別

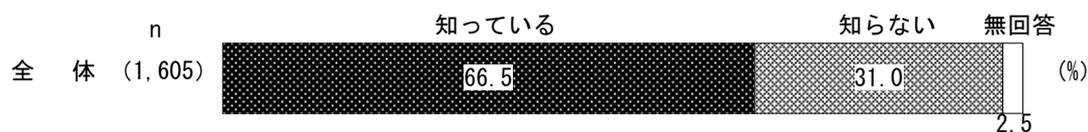


## (2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

◇「知っている」が6割台半ば

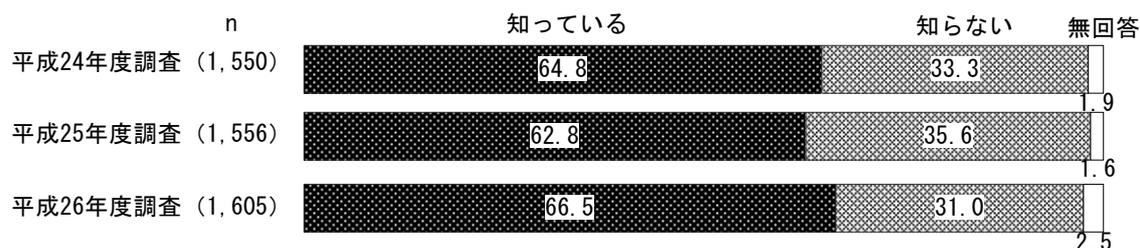
問29 市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。(○は1つ)

<図表6-3> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(66.5%)が6割台半ばとなっている。一方、「知らない」(31.0%)は3割を超えている。(図表6-3)

[参考] 平成24年度・平成25年度の同様の項目による調査結果との比較(単位: %)



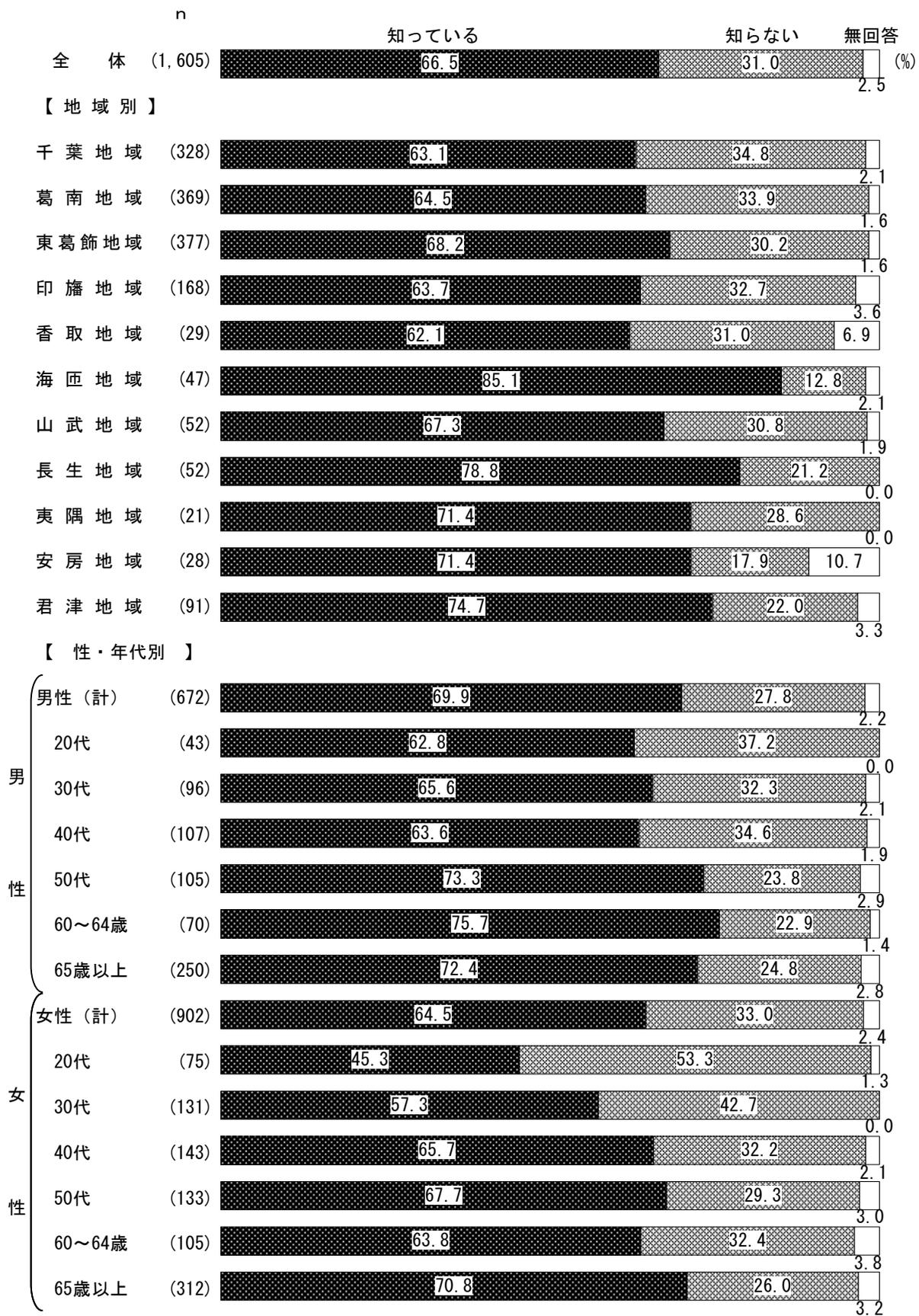
### 【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“海匝地域”(85.1%)が8割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。(図表6-4)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の60~64歳(75.7%)、男性の50代(73.3%)が7割台半ば、男性の65歳以上(72.4%)が7割を超えて他の年代に比べて高くなっている。(図表6-4)

<図表6-4> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

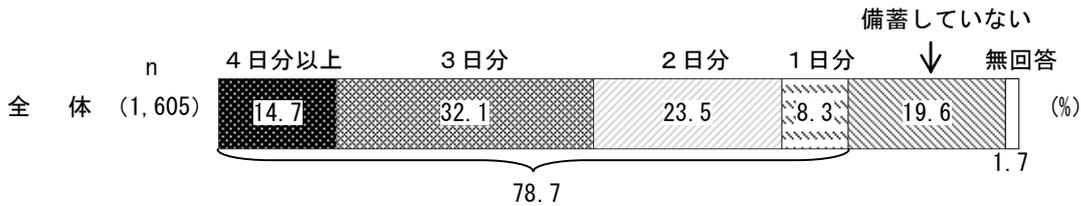


### (3) 飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している』は約8割

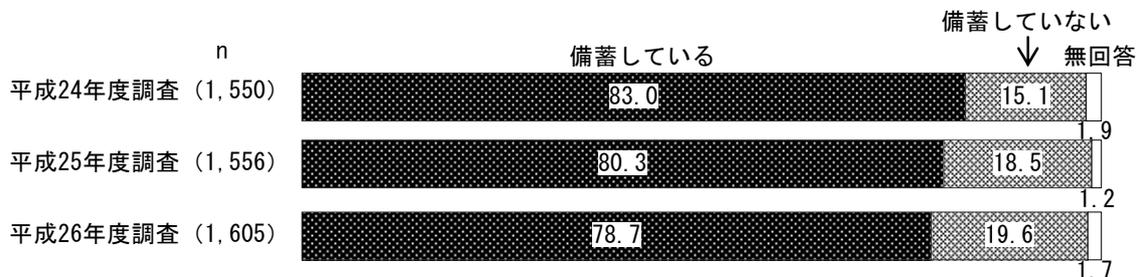
問30 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫等にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。(○は1つ)

<図表6-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.1%)が3割を超え、「2日分」(23.5%)が2割台半ば、「4日分以上」(14.7%)が1割台半ば、「1日分」(8.3%)が約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(78.7%)は約8割となっている。「備蓄していない」(19.6%)は約2割となっている。(図表6-5)

[参考] 平成24年度・平成25年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



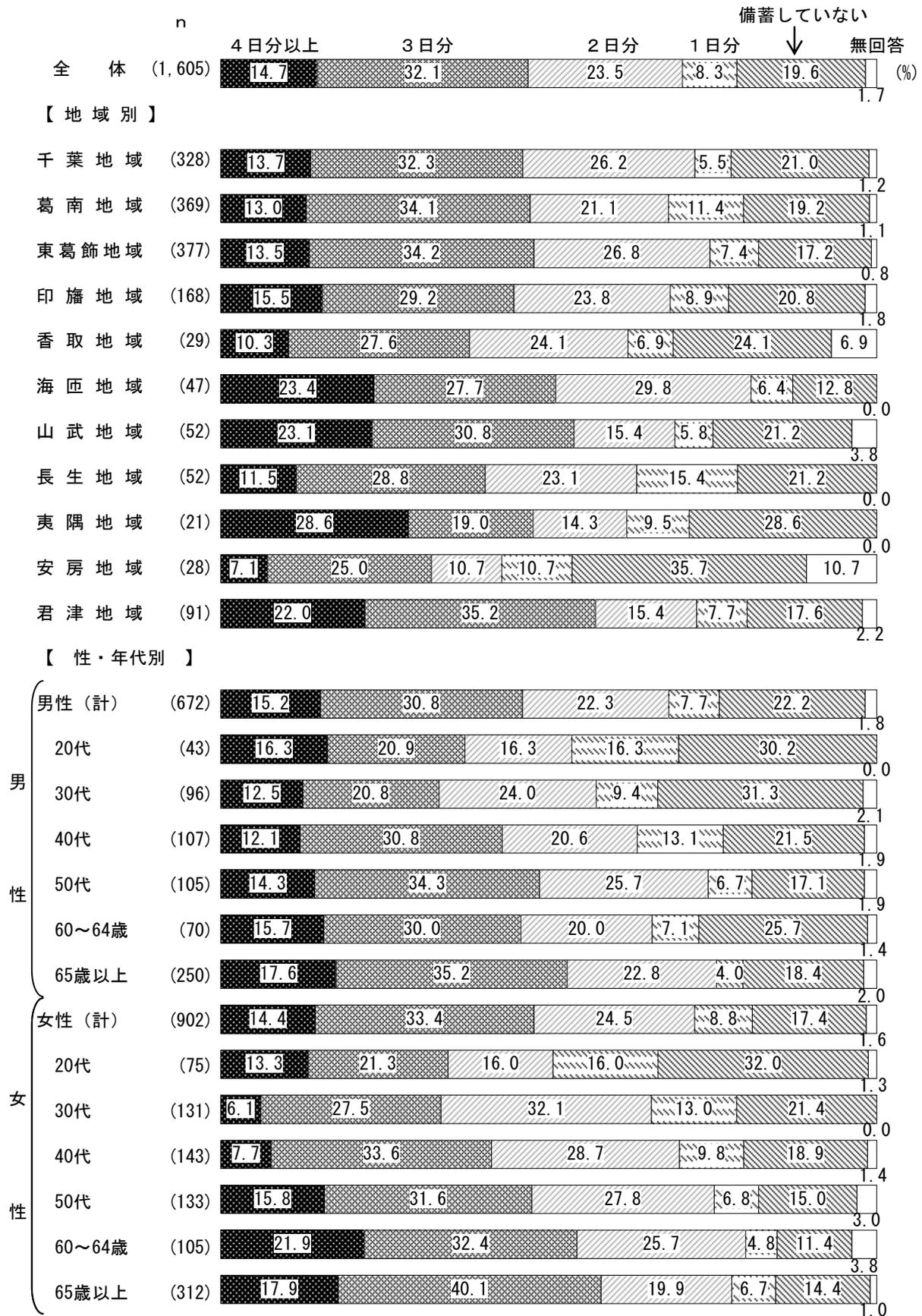
#### 【地域別】

地域別にみると、『備蓄している』は“安房地域”(53.6%)を除く全ての地域で6割から8割と高くなっている。(図表6-6)

#### 【性・年代別】

年齢層の高い方が『備蓄している』割合が高い傾向が見られる。(図表6-6)

<図表6-6> 飲料水や食料の備蓄状況/地域別、性・年代別

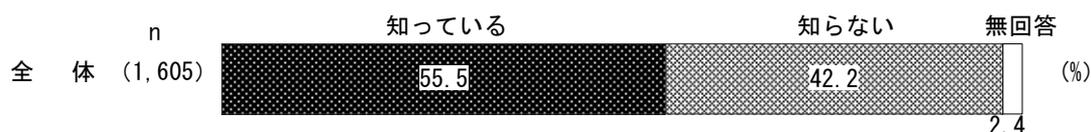


#### (4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇「知っている」は5割台半ば

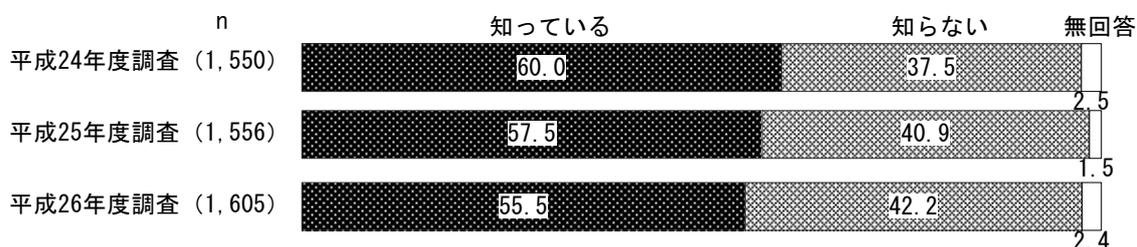
問31 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。東日本大震災でも、使用できなくなりました。  
あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。  
(○は1つ)

<図表6-7>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(55.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「知らない」(42.2%)は4割を超えている。(図表6-7)

【参考】平成24年度・平成25年度の同様の項目による調査結果との比較(単位:%)



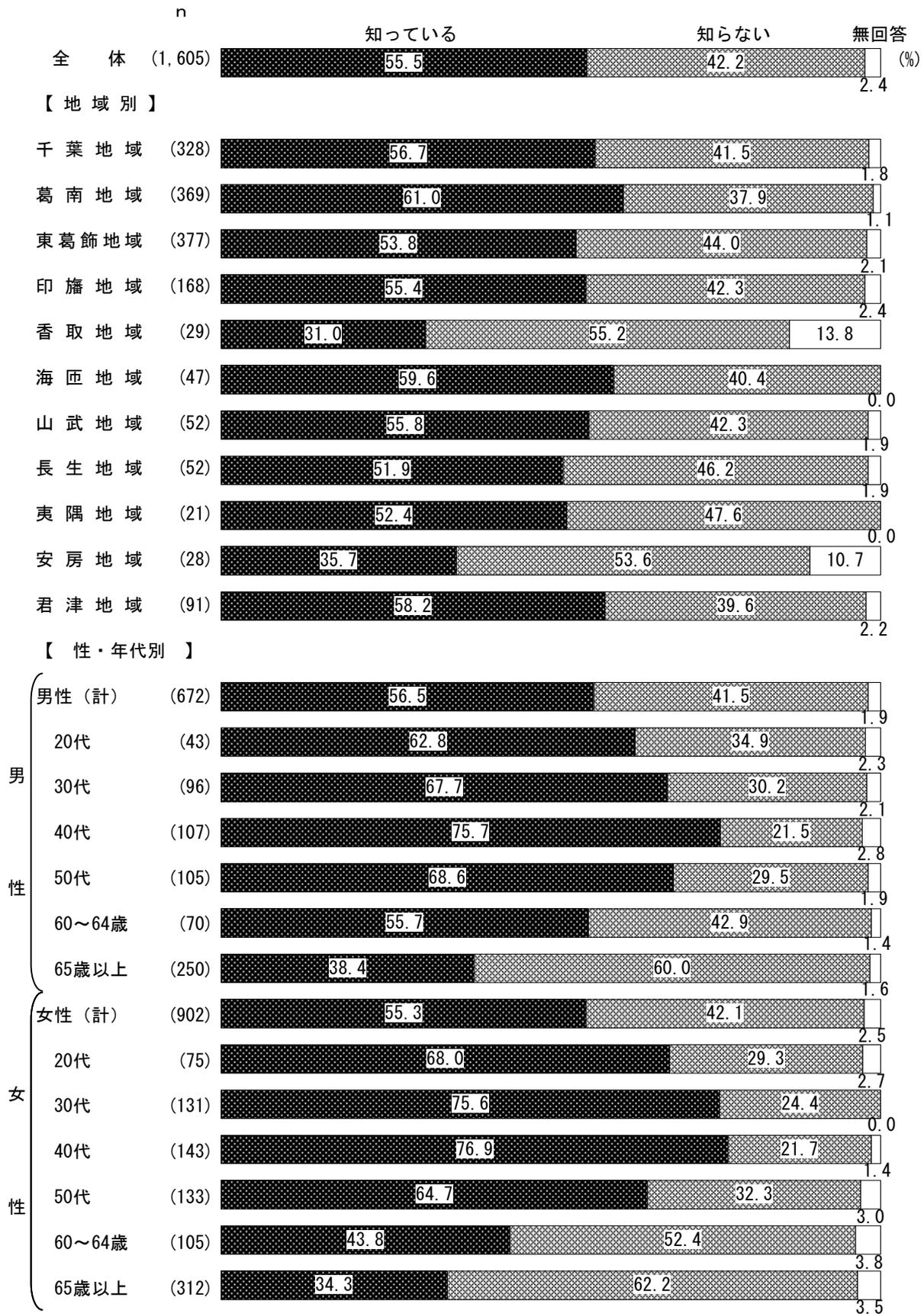
#### 【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“安房地域”(35.7%)、“香取地域”(31.0%)を除く全ての地域で5割から6割となっている。(図表6-8)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の40代(76.9%)、女性の30代(75.6%)、男性の40代(75.7%)が7割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。(図表6-8)

<図表6-8>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度/地域別、性・年代別

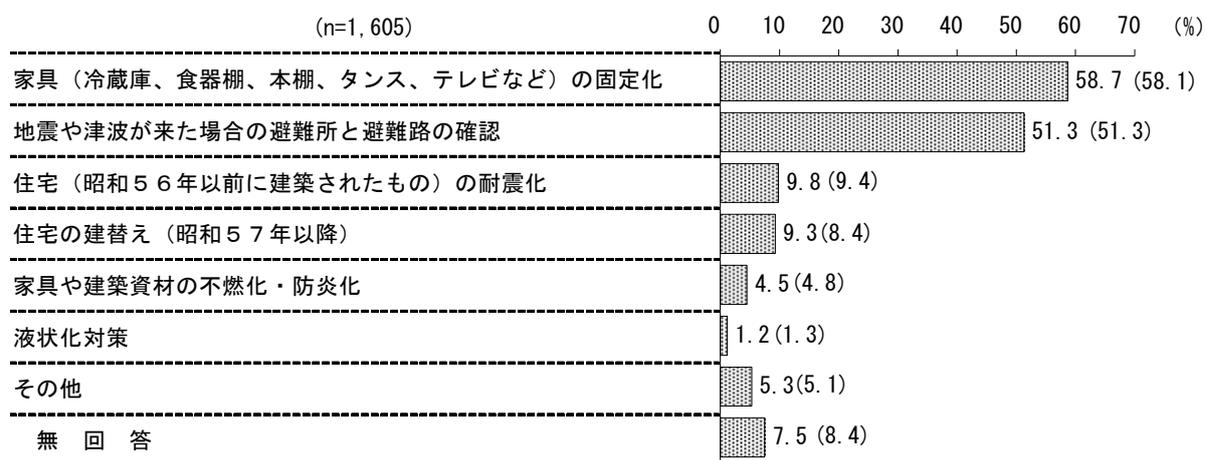


## (5) 地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約6割

問32 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか。（行う予定ですか）。（〇はいくつでも）

<図表6-9>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注）（ ）の数字は平成25年度の同様の項目による調査結果 n = 1,556

地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（58.7%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」（51.3%）が5割を超え、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.8%）と「住宅の建替え（昭和57年以降）」（9.3%）が約1割と続いている。（図表6-9）

### 【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“長生地域”（67.3%）、“君津地域”（67.0%）が約7割と他の地域に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は“夷隅地域”（90.5%）が9割と高くなっている。（図表6-10）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の60～64歳（68.6%）が約7割と他の年代に比べて高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は女性の60～64歳（58.1%）、65歳以上（57.4%）、20代（57.3%）が約6割、50代（56.4%）が5割台半ばと高くなっている。（図表6-10）

<図表6-10>地震の被害を防ぐための対策／地域別、性・年代別

